



学園通信

練馬区立大泉学園中学校

令和元年 11 月 28 日発行 校長 晴佐久和彦

成長を願って

1 1 月も下旬となり、今年も残すところ 1 ヶ月あまりとなりました。毎年、この時期になると慌ただしい中にも、ほっと一息つける年末・年始の時間を持ちたいと願うのですが、「師走」という言葉の通り、現実はなかなかうまく運びません。世の中全体で「働き方改革」が言われている中、学校全体で効率的かつ丁寧に仕事を進め、落ち着いて学期末を迎えられればと考えています。

さて、今月は 1 年生が川越市内、2 年生が都内各所を巡る形での校外学習が行われました。両日も好天に恵まれて良い学習が出来ましたが、今回の行事の大きな目的として、班行動の意識を高めることができました。チェックポイント等で様子を見させてもらいましたが、両学年とも多くの班が時間に遅れることなく、班長中心に点呼、報告が出来、頼もしく感じました。集団（今は学園中）の一員としての意識をしっかりと持ち、仲間と協力して行動することは、これからの学校生活そして人生において非常に重要なことです。1、2 年生の皆さんには、今回取組んだ経験を 3 年生になっての修学旅行、さらには進路決定の場面等につなげていってほしいと願っています。

ところで、今月の世の中の動きの中で、オリンピック種目のマラソン、競歩の競技会場が東京から札幌に変更されるというものがありません。そして、その議論の中では「選手ファースト」というフレーズがよく使われていました。暑さはもちろん、選手の立場や思いをまず尊重して、様々な判断をしていくということでしょう。これを学校ではめれば「生徒ファースト」であり、各家庭や地域であれば、「子どもファースト」ということなのだと思います。特に少子化が進む中で、この理念は今後も進んでいくに違いないし、とても大切なことであると考えます。その一方で、こうした理念は「その子どもの成長、幸せ」に真につながっていくものでなければなりません。それは子どもに単に迎合していくということではなく、例えば、子育てでいえば、子どもに適度な負荷を掛けてあげることによって打たれ強く、またたくましく育てていくといったことであり、子どもにとって、その時は「つらさ」や「我慢」があったとしても、それを乗り越えた時の達成感、自信は、本人の大きな実りとなっていくのではないのでしょうか。今、子ども達が歩んでいる中学時代は、将来に向けて自らを鍛えていくのにまさに絶好の時期と言えるでしょう。

大きな愛情を注ぎながら時に厳しさをもって鍛え、出来たことはしっかりと評価し、ほめていく。子ども達の成長を願いつつ、日々の教育活動を着実に進めていきたいものです。

産休に伴う担任および教科担当変更のお知らせ

1 2 月 1 日より保健体育科の白井理恵先生が産休に入ることとなりました。つきましては、2 年 C 組担任および 1、2 年生保健体育の授業を、このたび産育休代替教諭として着任する二見駿吾先生が受け持つこととなります。年度途中の変更とはなりますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

生徒総会

10月28日(月)6校時、体育館で後期の生徒総会が行われました。後期の学園中のスローガンは前期に引き続き「We love 学園中」になりました。前年度も同じスローガンでした。学園中の伝統として学校に誇りを持ち、愛してほしいという強い思いが伝わってきました。生徒会役員のスローガンは「Nothing is impossible(不可能はない)」でした。学園中生全員が力を合わせ、高みを目指したいという思いを込めています。以下は各委員会の活動目標、方針です。

第3学年委員会 進歩

第2学年委員会 原点回帰<前進 (現在の私たち、過去の私たち、現在の私たち、そして、未来の私たち=時の旅人)

第1学年委員会 初心を忘れず Step up

生活委員会 Shall we greet? ~あいさつから始まる1日を!~

整美委員会 学校なのにゴミねーじゃん

図書委員会 僕らの知りたいものは図書室にある

保険給食委員会 レッツスターティン!! ~手洗い、うがいで風邪予防~

放送委員会 僕らは黒子

活動目標や活動内容について質疑応答が行われました。併せて、生徒会より学園中人権宣言が行われました。前期にも人権宣言が行われており、その内容は同じものでしたが改めて生徒会役員から提案がなされ、全生徒とともに確認しました。



1年生校外学習

11月7日(木)に1年生は校外学習として川越市内巡りを実施しました。中学に入って初めての校外学習でした。校外学習の目的は以下の4点です。

- (1)班行動を身に付ける。
- (2)班で行動することにより協力することの大切さを身に付ける。
- (3)生徒同士の間関係を深めよい思い出を残すとともに、今後の学校生活がより充実したものになるようにする。
- (4)川越の過去や現在の姿を知り、未来を考える。

川越市内は交通量も多くガードレールがない所も多くあります。しっかりと交通ルールを守り、チェックポイントの喜多院・川越市立博物館・菓子屋横丁を無事にめぐってきました。川越市立博物館のチェックポイントでは報告の仕方(荷物を荷物置き場に置く)や博物館の受付でしおりに記載されている入館券の提示や挨拶(拝観前・拝観後)を事前の指導に従いしっかりと行っていました。生徒たちは班の協力や時間を守ることを意識して行動することができ、校外学習の目的はほぼ達成



できたと思います。校外学習で学んだことを普段の学校生活に生かしていきましょう。



2年生校外学習

11月8日(金)に2年生は校外学習として都内巡りを実施しました。昨年度は練馬区内を巡りました。今回は都内となり、より広い範囲での班活動となりました。校外学習の目的は上記1年生の目的とほとんど変わりはありません。異なる点はコミュニケーション能力を高め、一人一人が役割や責任をもって活動することと、次年度の修学旅行へ結び付けていく点です。チェックポイントは江戸東京博物館、浅草寺でした。班ごとに昼食場所を決め、様々な昼食をとっていたようです。事故もなく無事終了することができましたが班でまとまって行動することや不要物の持ち込みなど一部に課題もありました。事後学習や学校生活の中で今回課題となったことに対し解決に向け取り組んでいくことを期待します。



いちよう祭り(大泉学園町商店会主催)

前日からの冷たい雨が上がり、11月24日(日)に大泉風致地区公園でいちよう祭りが行われました。早稲田大学社会学部卯月ゼミナールと大泉学園町商店会がコラボレーションした企画の発表がありました。企画は学園中と桜学園の生徒が大泉学園町の各お店へのインタビューを通し、インタビュー前とインタビュー後のイメージをポスターにし、各店舗に掲示しました。また、生徒たちはプロの漫画家の本庄先生に指導していただきながら夏休みの期間に計5回の取り組みの中でくじ引きの景品となるトートバッグのデザインを考えました。デザインは大根をモチーフにしたうさぎのうりまちゃんをベースに生徒たちがイラストを描き



ました。この企画に学園中からは8名の生徒が参加しました。いちよう祭り当日は、デザインでそれぞれの生徒が工夫した点などを発表し、くじ引きの交換所のお手伝いのボランティアを行いました。

企画の発表後にうどんをごちそうになりました。



さぎのうりまちゃんです。

地域清掃

11月22日(金)の放課後16時から、部活動の有志生徒を中心に学校敷地内や学校周り、地域の清掃活動を行う予定でしたが雨天のため中止となりました。事前の申し込みでは全校生徒の3分の一以上の181名がボランティアとして参加予定でした。次の機会に地域の美化に協力してくれることを願っています。

狂言教室

11月27日(水)の13時30分から1年生は武道場で「万作の会」の方々による狂言を鑑賞しました。集会や体育などで使用する武道場に畳、台、角椅子、パイプ椅子で段差を作り、手作りの特設観客席を作るなど工夫をして間近で鑑賞しやすくしました。また、ワークショップとして能と狂言の違いの説明を受け、全生徒が柿を取り、食べるしぐさを演じてみたりしました。狂言はセリフとしぐさを中心とした写實的・喜劇的な対話劇です。狂言は様々な登場人物等と日常的な事柄のうちだれもが持っている生活感情の機微を洗練された笑いに表現しています。健康的で大らかな人間への賛歌であり、鑑賞中に生徒からも笑いが漏れていました。



演目は「盆山(ぼんさん)」「附子(ぶす)」でした。主演者全員が人間国宝の野村万作氏に師事された方々です。所作の中にはアクロバティックな技もあれば様式的な舞、パントマイムに近いものもありました。声はしゃべる、語る、謡を使い分けて演技をしていました。

生徒たちは、演技者から数mの間近で臨場感あふれる演技を鑑賞することができて大変貴重な体験をすることができました。

